

# 30amE-190

欧米諸国における腸管出血性大腸菌 O157 アウトブレイクの最近の状況 (2006～2012年)

○天沼 宏<sup>1</sup>, 窪田 邦宏<sup>1</sup>, 春日 文子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>国立衛研)

【目的】国立衛研安全情報部では海外公的機関が発表する最新の食品安全情報や関連学術論文等を収集、評価し、一部については概要を隔週報の「食品安全情報」として当所のホームページに掲載している。腸管出血性大腸菌 (EHEC) O157 は患者に出血性下痢や溶血性尿毒症症候群 (HUS) などの重篤な症状をもたらし、公衆衛生上の問題となっている。今回、我が国の対策に資するため、欧米諸国での 2006～2012 年の一部の EHEC O157 アウトブレイクを文献調査し動向の把握を行った。

【方法】米国については疾病予防管理センター (CDC) が詳細を報告した食品由来アウトブレイク 13 件を、欧州諸国については Eurosurveillance 誌に掲載された論文 9 編、および英国健康保護庁 (HPA) が発表した報告書等 2 報に取り上げられたアウトブレイク 10 件を調査した。これらのアウトブレイクの一部は「食品安全情報」で以前に紹介された。

【結果と考察】米国のアウトブレイク 13 件の患者数は 1 件あたり 8～199 人で、患者総数の 55% (アウトブレイク別では患者の 23～75%) が入院し、10% (0～19%) が HUS を発症、0.8% が死亡した。欧州諸国でのアウトブレイク 10 件では、患者数が 2～250 人で、患者総数の 33% (30～78%) が入院し、5.9% (0～50%) が HUS を発症、0.8% が死亡した。米国のアウトブレイクの原因食品としては、食肉 (牛ひき肉、ソーセージ)、乳製品 (チーズ)、農産物 (ホウレンソウ、レタス)、およびその他の食品 (ピザ、クッキー生地、ナッツ) が挙げられ、欧州諸国のアウトブレイクでは、食品 (牛ひき肉等の食肉、レタス等の農産物) 以外に、触れ合い農場での動物との接触が感染経路として挙げられていた。我が国でもこれらの原因食品や感染経路に注意が必要と考えられる。